



ウェルビー



発熱患者の受け入れ態勢整備



今年の冬は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）とインフルエンザの同時流行に最大限の警戒が必要となります。発熱患者が医療機関に受診した際、感染が拡大することを避けるために、敷地内に TENT を設置しました。

この TENT は発熱している患者さんが診察を受けるまでの待機場所として活用することを予定しています。陰圧装置付き車椅子や体温を自動測定する「サーモグラフィー」も導入しています。

通院自粛で持病悪化！？



『新型コロナウイルス』
警戒でステイホーム



新型コロナウイルスの感染を恐れて通院を控えていますか？ 通院を控えることで新型コロナウイルスの感染予防ができて、持病の悪化や、早期発見できたはずのがんが進行してしまうなどの可能性があります。

新型コロナウイルスの感染予防（マスクの着用や手洗いなどの徹底など）を行い、必要な通院をきちんとすることで健康維持に努めましょう！！

- 慢性疾患で定期的に通院が必要な方
電話再診も受け付けております。ご自身の判断で受診を中断せずにご連絡ください。
- 特定健診・がん検診
日本人の 2 人に 1 人ががんにかかるといわれています。早期発見・早期治療でがんを治しましょう。
- 「要精密検査」「要治療」の方
速やかに専門の医療機関を受診してください。

～NST 委員会だより～

夏の疲れ・秋バテに、免疫力を up しよう!!

今年は新型コロナウイルスが流行し、大変な日々が続いています。そして現在は過ごしやすい季節ですが、体調を崩しやすい時期でもあります。季節の変わり目である 9～11 月は、昼と夜の気温差や月平均の気温の寒暖差が大きくなります。そのため気温の寒暖差やストレスなどの影響で自律神経のバランスが崩れやすくなります。

体調を崩さないためにも食事はとても大切です。

「1 日 3 食 主食・主菜・副菜の揃った食事」を心がけましょう！

免疫力を高める理想的な食事。

『倦怠感を感じる』

『疲れがとれない』

『よく眠れない』



主食・・・ごはん、パン、麺などの穀類。
炭水化物を多く含み、エネルギーのもとになります。

主菜・・・メインディッシュ！魚や肉、卵、大豆
を主な材料にした料理。
タンパク質や脂質を多く含みます。

副菜・・・野菜、いも、海藻などを主な材料にした料理。色んなビタミン、鉄、カルシウム、食物繊維などを多く含みます。

根菜の煮物（副菜）

ホウレンソウのおひたし（副菜）

ごはん

焼きガケ（主菜）

豆腐とワカメのみそ汁

意外と多い秋の食中毒！ 新型コロナウイルスにより、食品をテイクアウトする人が増えていますが、気温や湿度が高くなることで食品が腐りやすくなるため調理されてから 2 時間以内に食べるようにしましょう！



食中毒予防の 3 原則 食中毒菌を「付けない、増やさない、やっつける」

清潔

- ◎ 肉、魚、卵などを取り扱う時は、取り扱う前と後に必ず手指を洗いましょう。
- ◎ 包丁・食器・まな板・ふきん・たわし・スポンジなどは使用後汚れがひどければ清潔なものと交換しましょう。洗った後熱湯をかけたりますと消毒効果があります。

調理

- ◎ 加熱して調理する食品は十分に加熱しましょう。目安は中心部の温度が 75℃で 1 分間以上加熱することです。
- ◎ 料理を途中でやめてそのまま室温に放置すると、細菌が食品についたり増えたりします。途中でやめるような時は冷蔵庫に入れましょう。

保存

- ◎ 冷蔵庫は 10℃以下、冷凍庫はマイナス 15℃以下に維持することが目安です。しかし細菌が死滅するわけではないので食品は早めに使い切りましょう。
- ◎ 冷蔵庫や冷凍庫の詰めすぎに注意しましょう。目安は 7 割程度です。

NST とは？

Nutrition Support Team(栄養サポートチーム)の略で、入院患者さんに最良の栄養療法を提供するために、病院内のスタッフの職種を越えて構成された医療チームです。当院では 2007 年にチームが発足し、患者さんの栄養状態を評価し、栄養管理が必要かどうかを判定しています。その後、専門家それぞれの視点から、どのような栄養管理が行われているかチェックし、より適切な管理方法を実施します。適切な栄養管理を行うことで合併症を予防したり、治療効果を向上させたりします。



教えて！認定看護師さん



認定看護師とはある特定の看護分野において「実践」「指導」「相談」の三つの役割を果たすことで、看護の広がりや質の向上を図ることに貢献します。認定看護師の特定分野は 21 あり、日本看護協会の認定を受けそれぞれ全国で活動を行っています。

緩和ケアとは！



深刻な病気に直面している患者さんやご家族は、病気の診断を受けた早い時期から、病気や治療が原因で起こる痛みや倦怠感などの体の症状、気持ちのつらさ、治療に伴う社会生活での問題を抱えることが多いといわれています。緩和ケアとはその問題を病気の早期の段階から患者さんやご家族と一緒に考え、苦痛の予防と症状緩和を、治療を続けながらもできるだけ希望に沿った生活を送れるように提供するケアのことをいい、治療の最終段階で行われるケアではありません。

がん治療

基本的緩和ケア 専門的緩和ケア

(イメージ図)



また、我が国の緩和ケアは、がんの苦痛を取り除くケアを中心に発展してきたため、多くの方が必要としており、そのケアを受けられています。しかし、最近では心疾患の方や、呼吸器疾患、難病の方などへの緩和ケアも必要であるとの認識がなされ、がん以外の病気の方への緩和ケアの広がりも期待されています。

緩和ケア認定看護師

辻本 芳子



私の認定分野は「緩和ケア」で 2008 年からその活動を行っています。現在、病院の『地域包括ケア病棟』と緩和ケア医 2 名、精神科医 1 名、薬剤師 1 名、管理栄養士 1 名、事務職員 1 名から構成された、患者様の症状や薬、食事や退院後の生活などの問題を緩和することを目的とする『緩和ケアチーム』に所属しています。患者さんやご家族とのお話やケアを通して起こっている問題や、今後起こってくる問題を、患者さんの主治医や患者さんが入院されている病棟の担当スタッフ、所属病棟のスタッフ、緩和ケアチームのスタッフと協力しながら解決できるように活動しています。病気を伝えられた時の衝撃は、治療のつらさ、命の重みをご本人やご家族と同じように思うことは出来ませんが、そのお気持ちを感じながら、治療と並行して続いていくいつもの生活が少しでも希望に沿って送っていただけるようにと考え努めて参ります。

毎年 10 月は「乳がん月間」



紀和ブレスト(乳腺)センター 新たな試み

コロナ禍で乳がん検診率が低下するなか、乳がんの早期発見・自己検診の大切さを伝えるピンクリボン運動

ピンクリボンマスクで乳がん検診率向上を！

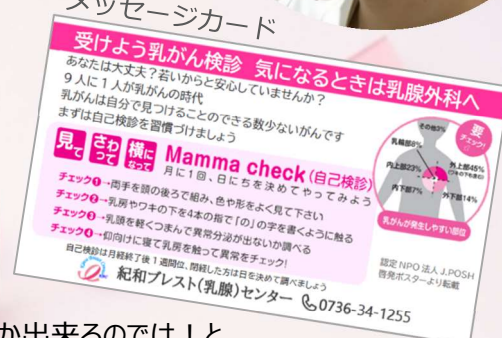
2009 年 紀和ブレスト(乳腺)センター開設以来、様々な著名人を招いて毎年乳がん月間の 10 月に講演会を開催してきましたが、2020 年は新型コロナウイルスの状況を踏まえ、中止が決定しました。



しかし、こんな時だからこそ、何か出来るのでは！と、今年は乳がん撲滅シンボルの「ピンクリボン」と当センター「KBC マーク」で、オリジナルのマスクを作成し、職員がピンクリボンマスクを着用して、乳がん月間の啓発活動の雰囲気を高めたいと思います。また、14 日から 3 日間にわたり、メッセージカード付の不織布マスク 500 枚を用意し、当院乳がん患者会のみなさんが、来院された方へ「検診を受けましょう」などと声を掛け、マスクを配りました。



メッセージカード





利用者様にとびっきりの愛と感動を、ご家族様にとびっきりの安心を提供できる存在を目指します。また、介護の職に就くものとしての使命を忘れることなく、とびっきりのサービスを提供します。



- サービス付き高齢者向け住宅 あがある
- デイサービスあがある
- デイサービスあがある伏原
- デイサービスあがある大野
- あがあるケアサポート(訪問介護)



心地よい穏やかな時間を過ごすために
これからも自宅で暮らせる毎日へ

検査内容

- ◆ 胸部 X 線検査
- ◆ 嚥下評価
- ◆ CT 検査 (胸部・腹部)
- ◆ 心電図
- ◆ 超音波検査 (心臓・肝胆膵脾腎)
- ◆ 上部消化管内視鏡
- ◆ 尿検査
- ◆ MRI 検査 (脳)
- ◆ 栄養指導
- ◆ 入浴
- ◆ オプション 下部消化管内視鏡(S 状結腸検査)

2020 年 8 月から、在宅訪問診療を受けられている方を対象に検査入院の受け入れを始めました。
安心して入院していただけるよう、またご家族の負担を軽減するために、送迎サービスを行います。

送迎無料



番組タイトル

「紀和病院のきわめびと」



毎週水曜日
午後 16:30~



「紀和病院のきわめびと」として、
地域のみなさんへ旬な医療の話題などを通して、
私たち南労会の想いをお届けしています！

～介護事業所特集～

看護小規模多機能型居宅介護

紀和リハビリ倶楽部/みどりクリニックデイリハビリ/ケアセンター森のこかげ

それぞれの事業所でどのような支援を受けられるのか、
どうすれば利用できるのか。その施設の特色などを
話しました。



デイリハビリ課長
竹田 順子



リハビリ倶楽部主任
平岡 哲哉



森のこかげ主任
吉田 久江



森のこかげ看護師
吉田 和世

～医療安全・緩和ケア・薬剤部のお話～



医療安全管理室
王野 祥子



緩和ケア科医長
廣岡 慎治



薬剤部部長
佐藤 由起子

医療安全という観点からとらえた医療のあり方
について。緩和ケアで行っている医療について。
薬剤師の仕事について。また新型コロナウイルス
感染拡大下での緩和ケア病棟や薬剤部の対応
についてなど話しました。

「紀和病院のきわめびと」番組情報

放送日 毎週水曜日 16:30~16:45

周波数 81.6MHz





院長 河原 史郎 先生

平成 3 年、高野口で開業しました。河原医院は大正から昭和中頃まで九度山で診療していました。祖父は明治時代、和歌山中学(現、桐蔭高校)から大阪大学の前身(まだ帝国大学になってなかった)の医学専門学校を卒業して小児科・内科医。祖母は東京女子医大の前身、東京女子医専で女子医学教育の先駆者：吉岡弥生に師事し、外科医。父は歯科医として、九度山の西端で紀の川と丹生川を見下ろす丘に建つ旅館を増改築して、地域医療の一端を担っていました。

昭和 31 年、祖父と父が亡くなり閉院しました。父の弟が九度山の金太郎像の所で、河原医院(祖母方の製菓業の屋号「米金」医院と呼ばれていた)を更に 10 年程していました。

私は和歌山医大卒業後、大学病院、橋本市民病院等で勤務した後、バブル崩壊直前に開業しました。勤務中は手の外科クリニックを担当し、約 40 年前、橋本市民病院で最初の切断手の接着に成功しています。また、骨折治療の理論と手術器具システム A.O.(ア・オ)を和歌山医大に導入・普及させました。

開業後も他の病院で出張手術をしていましたが、アラウンド古希になって手術は引退し、今は他病院で手術された患者さんのレントゲンを見て「ここにネジ 1 本あればギブスは要らない」「ここはプレートで支えているからネジは要らない」と思いながら黙って診察しています。

河原整形外科

TEL 0736-42-5757

和歌山県橋本市高野口町名古屋 283-1

ところで私の趣味は学会と研修会に行くことです。と言いたところですが、そのアフターにレストランでフランス料理を食べてワインを楽しむことです。料理やワインの本は医学書の次に多く、300 冊程あります。食事のマナー、料理とワインの選択は御手の物です。ある一流レストランで、あのタイヤメーカーの赤本の調査員に間違えられたことは、暫く話のネタになりました。武漢コロナ禍の昨今、塊肉をローストしてワインを家呑みしていますが、フランス料理はソースが命、満腹になっても満足は得られません。都会に住む子供達にデパートやホテルのトレチュールでフランス惣菜を買ってクール配送してもらって凌いでいます。

休日は遠出を自粛して、医院を DIY で感染予防しています。待合の長椅子は、一人掛けスペースごとにナイロンシートでシールドし、診察室も中央でシールドしてシートの割れ目からアームカバーと手袋をした腕を患者さんのゾーンに出して診察をする完全ゾーニングをしています。また、換気扇を増設し、一方向の窓を開けて反対方向の換気扇のみ作動させ、気流を一方向に強制換気しています。患者さんには高齢者が多く、病気を治すために来た医院で感染させてはならないと努力しています。

学会・研修会に行けなくて新しい知識があまり得られていませんが、紀和病院の検査と、バックアップのもと、整形外科 40 年以上の経験を生かして地域医療に貢献していきたいと思っています。

*本文は院長 河原 史郎 先生よりご寄稿いただきました。



【紀和病院】 9月1日 曾和晃正(疼痛緩和内科) 着任

【紀和病院】 10月1日 山本 敬(放射線科) 着任

【紀和クリニック】 10月6日 森田泰慶(血液内科) 着任

新任医師の紹介



曾和 晃正(そわ てるまさ) 医師

疼痛緩和内科

【略歴】大阪市立大学医学部(平成 17 年卒)／京都大学大学院医学研究科(平成 29 年卒)

【資格】医学博士／日本呼吸器外科学会 呼吸器外科専門医／日本外科学会 外科専門医

緩和ケアを通して、がん患者さんのさまざまな苦痛をケアし、穏やかに過ごしていただけるように支えて参ります。趣味：自転車(ツーリング、山登り、修理)



山本 敬(やまもと たかし) 医師

放射線科

【略歴】近畿大学医学部(昭和 61 年卒)／近畿大学大学院医学研究科(平成 9 年卒)

【資格】日本医学放射線学会 放射線診断専門医／日本医学放射線学会 研修指導者

院内や紹介患者さんの画像検査を担当します。迅速な報告ができるよう心がけていると思っています。

趣味：ハイキング・ボルダリング